

2020（令和2）年度
法務研究科 法務専攻（法科大学院）A 日程 入学試験問題
「小論文」
（60分）

注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。

【問題】次の文章を読んで後の設問に答えなさい。（配点150点）

2019年4月に行われた統一地方選挙は、投票率がまたも低下し、史上最低に落ち込んだらしい。選挙に参加する人が減ってくると、「自分達の代表を投票で選ぶ」という選挙制度の趣旨が崩れてしまう。投票率の低下は、民主主義の危機であり、現代社会において克服すべき課題であるという意見をよく耳にする。

投票率は、高齢者より若年層の方が低い。「政治家は、投票する者に顔を向ける」という言葉があるとおりに、選挙を見据えた政治家は、人数が少なく投票率が低い若者より、人数が多く投票率が高い高齢者に喜ばれる政策をPRしがちになる。若年層が自らに有利な政策を求めるのであれば、つべこべ言っていないで、まず、選挙に行くべきだという意見もある。

選挙に行かなかった人に、その理由を聞いてみると

- ・仕事が忙しくて時間がなかったから
 - ・適当な候補者がいなかったから
 - ・病気又は体調が悪かったから
 - ・選挙によって政治や暮らしが良くなるわけではないから
 - ・候補者の人柄や政策がわからなかったから
 - ・自分1人が投票しなくても選挙の結果に影響がないから
- といった理由が上位を占めているという¹⁾。

低投票率に対する対応策として「義務的投票制度」、すなわち、有権者に対して選挙において投票することや投票所へ行くことを法律によって義務付け、それに違反した者にたいして、罰金を科したり、次回の選挙における選挙権や被選挙権を制限したりといった罰則を設ける制度を採用すべきであるという主張もある。この制度を導入している国では、選挙の投票率は90%以上に及ぶのだという。

1) <http://www.senkyo.metro.tokyo.jp/vote/lets-study/study-nazetouhyo/>（2019年4月30日閲覧）

設問1 あなたは「有権者であれば選挙に行くべきだ」という主張に賛成しますか、反対しますか。上の文章の記述内容を踏まえて、論じなさい。

設問2 あなたは「義務的投票制度」の導入に賛成ですか、反対ですか。設問1における答えを踏まえて、論じなさい。